

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839
購読料 年共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷

第530号

新年特別号 TOPICS

2面…電子取引データ保存義務化
3面…2024年診療報酬改定の動向
4面…歯CAD適用拡大
5面…ライオンの街と旅心
6面…お年玉クロスワードパズル

山形保険医新聞
Yamagata medical practitioners newspaper



「地ふぶき門松」

撮影 酒田市 亀ヶ崎歯科医院 佐藤誠先生

「門松作ろう。まっすぐ自立させるのはむずかしい。それじゃ駐車場入り口にくっつけよう」
——その結果、地ふぶきに立ち向かう前衛的な門松になった。

あけましておめでとうございます。令和6年の新年にあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻は終わりが見えず、昨年10月7日からはパレスチナ・ハマスとイスラエルによる中東紛争が始まりました。その影響で原油価格は高騰し、物価もますます上昇しています。昨年7～9月期

のGDPは年率2・1%減となり、個人消費の落ち込みは深刻です。国民は消費を切り詰めて、なんとか物価高を乗り切ろうとしています。政府は6月から定額減税を予定していますが、その後に来る防衛費増税が国民の意識に深く影を落としているようです。世界が平和になることが何よりも経済発展につながるのだ

と、しみじみ感じるお正月となりました。

今年は診療・介護・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が控えています。新型コロナウイルス感染症への対応による経費増や患者の受診控えに改善は見られず、0・88%程度の診療報酬本体部分の改定では、地域医療を支える医療機関の経営は改善されません。このま

まの診療報酬では医療従事者の確保は難しく、地域医療の崩壊に拍車がかかることが懸念されます。誰もが安心して受診でき、医療従事者がじっくり患者さんに接することができる診療報酬体系を確立しなければなりません。

診療報酬の大幅引き上げを求める医師・歯科医師要請署名には、多くの会員の先生方からご協力いただき、署名のひとつと欄にはたくさんの現場の生の声が寄せられました。こうした積み重ねが政府を動かすと

確信しております。

昨年は山形県内の全ての市町村で18歳まで何らかの医療費助成が行われることになりました。全国でも7割の市町村で18歳まで医療費窓口負担が無料となりました。これは、私たち保険医協会をはじめ、患者団体などが粘り強く取り組み続けた成果だと思います。

また、山形県は12月に追加の補正予算案をとりまとめ、光熱費などの医療機関への支援として5億1700万円が計上されました。協会では昨年3～4月に会員の皆様にご協力いただき、物価高騰の影響についてアンケートを行い、約95%の医療機関が「電気代が上がった」と回答しました。調査結果を自治体に提出し、医療機関の現状を伝えたことが、こうした支援策の実現に結びついています。

まだまだ医療界は問題が山積していますが、県民の命と健康、保険医療機関を守り、より良い医療提供体制の実現のため、会員の皆様と共に取り組んで参りたいと思います。今年もよろしく願いいたします。

新年のあいさつ

理事長 中島 幸裕

ウクライナやガザ地区での戦争は、長期戦となり収拾の目途が立たない状況のようである。日本も台湾有事などの問題を抱え、対米追従の防衛費の大幅増額を決めたが、外交努力による安全保障を目指すべきではないだろうか。

◆一方、食料安全保障はどうだろうか。ご存知のとおり日本の食料自給率は極めて低く、カロリーベースで40%を切り先進国で最低水準となっている。60年前は70%であったが、農業、畜産業とも年々従事者は減り続け、農業県である山形でも後継者不足が深刻である。

◆規模を拡大しスケールメリットにより人手不足を補ってきたが、昨今のウクライナ問題による小麦や飼料のトウモロコシ価格の高騰、中国やインドなどでの需要急増、異常気象、急激な円安により維持していくことが困難になっている。

◆スイスは永世中立を堅持する平和・重武装中立国家であるが、食料自給率は約50%と低い。これに対し、有事の際に食料を確保すべく2017年、憲法に「食料安全保障」の条項を追加し自国の農業従業者を増やす施策を講じた。

その結果若者の農業従事者が増え、自給率も上がっている。焼け石に水の感のある軍事費増額よりも、日本もスイスの施策を見習うべきではないだろうか。(F)